

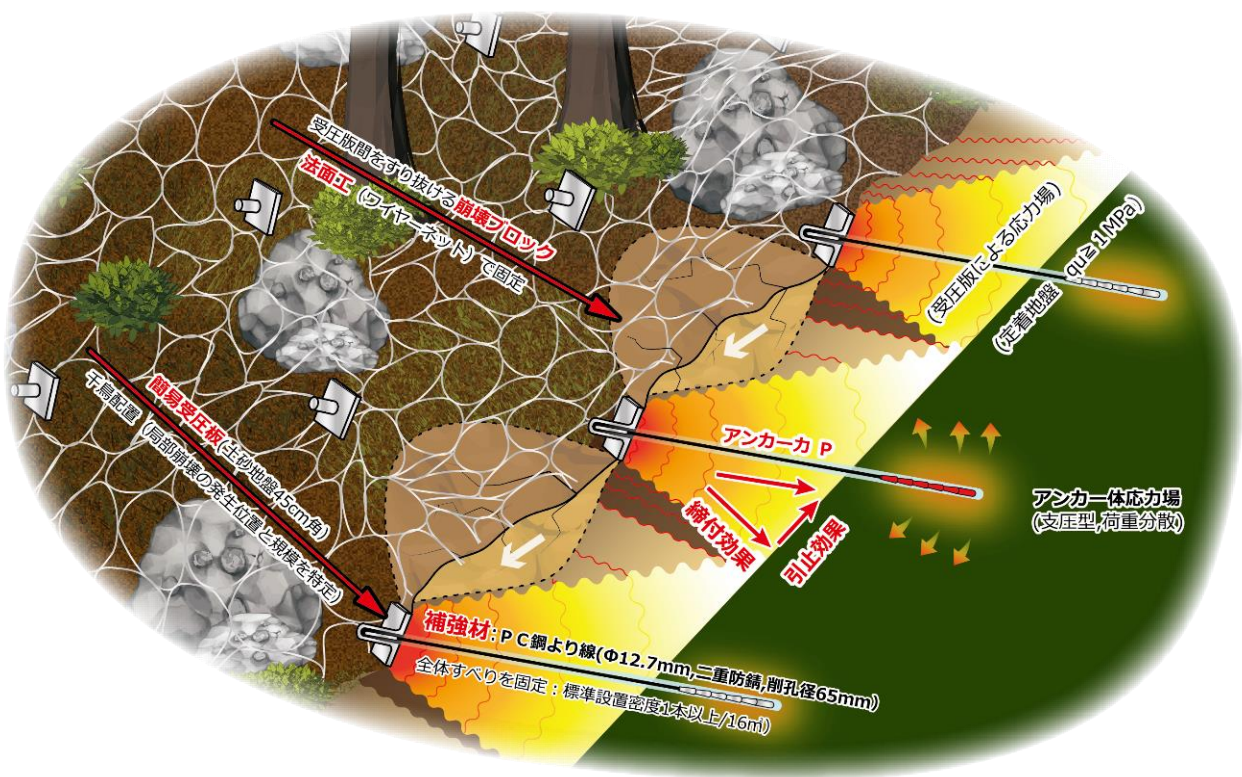
アンカーネット工法について

地山補強土工法が普及し始めたのは 2000 年前後であり、この頃から自然斜面や切土斜面の補強に多く用いられ出したように思われる。

当時はグラウンドアンカーに取り組んでいたため、「補強材は地山にほぼ垂直に設置、定着長は数m以内、緊張荷重は与えない、非二重防錆」といった内容（抑止機能）に大いに疑問を抱いた。密に設置（概略 2m^2 に 1 本）するといったことに関しても、“極めて不経済な工法”といった印象であった。

そのような“もっと合理的な方法があるはずだ”という思いでいた時期に、地山補強土工で対応できない現場に対する相談を受け、急遽開発したのがアンカーネット工法（2008 年）である。

これはくさび型アンカー工法（技術審査証明：砂防技術）とワイヤーネット被覆工法（NETIS 登録技術）を組み合わせたものであり、筆者にとっていわば集大成のようなものである。



アンカーネット工法（NETIS 登録 CB-210003-A）の抑止機構イメージ図